

第5回 IODP 部会・執行部会

日時 2005年9月2日(金)
時間 14:00~16:30
会場 海洋研究開発機構 東京事務所 10F 役員会議室

出席者(敬省略)

執行部員:鈴木徳行(北海道大学)・阿波根直一(北海道大学)・荒井晃作(産業総合研究所)・
白井正明(東京大学)・佐藤時幸(秋田大学)・山本啓之(JAMSTEC)・石橋純一郎
(九州大学)・巽好幸(JAMSTEC)

JAMSTEC:川村善久・笹山岳大

事務局:長橋徹

欠席者

山田泰広(京都大学)・海野進(静岡大学)・佐柳敬造(東海大学)・木戸ゆかり(JAMSTEC)・
山川稔(AESTO)・喜多河康二(AESTO)

議事次第

報告事項

1. SAS (AESTO 事務局, 阿波根)
 - ・ SPPOC 後任委員推薦について
 - ・ 最新のローテーション案 --->資料
 - (国際委員・パネル委員のご就任/ご退任の挨拶状) --->資料
 - ・ 広報関連(秋田大キャンペーン報告)
2. 乗船研究関連
 - ・ 現状報告--->資料
 - ・ サイエンス・コミュニケーターについて--->資料
3. J-DESC 主催シンポジウム(J-DESC 陸上掘削部会) --->資料

審議事項

4. 日本海ワークショップ関連について
5. Program Member Office meeting (京都) について--->資料
6. J-DESC 予算中間状況報告と下半期予定について--->資料
7. 研究成果の発信に向けた J-DESC としての取組みについて

その他

- ・ 小泉委員会の今後の進め方--->資料
- ・ Scientific Drilling Journal 刊行 (IODP-MI)
- ・ J-DESC News Letter--->資料
- ・ J-DESC 新パンフレットの制作について--->資料
- ・ IODP パンフレットについて

資料一式

- 資料 . . . 国際パネルローテーション一覧
- 資料 . . . 委員就任と退任における挨拶状
- 資料 . . . 今後の乗船/Sampling Party 等の予定表
- 資料 . . . サイエンス・コミュニケーターについて
- 資料 . . . シンポジウム開催通知
- 資料 . . . PMO について
- 資料 . . . J-DESC 予算中間状況表
- 資料 . . . 小泉委員会の今後の進め方 (案)
- 資料 . . . J-DESC News Letter
- 資料 . . . J-DESC 新パンフレットについて

***** 議事録 *****

報告事項

1. SAS 関連

SPPOC 後任委員推薦について

SPPOC 木村委員が長崎会議でローテーションオフするため、木村委員の後任推薦について阿波根補佐から説明があった。木村委員は BOG のメンバーであり、SPPOC はリエゾンとして参加されていたため、事務局は、BOG のメンバー以外で木村さんから候補者を推薦して頂くように依頼中だが、BOG の後任を先に決めるのではないかという意見があり、阿波根補佐がこの件について MI に確認することになった。

事務局から、SSEP の多数退任問題解決のため海野委員と小川委員の退任時期を早め、次期委員の推薦の開始をすることが地球内部専門部会で承認されたことを報告した。

事務局が、J-DESC から国内・国際委員へ就任/退任状を送付することを提案した。宛名は大学機関にして機関長 (会員代表者) にも同時送付することが決定された。

2. 乗船研究関連

阿波根補佐より資料 に基づき今後のサンプリングパーティ/ポストクルーズ会議の日程について報告された。

阿波根補佐より 310Tahiti 乗船の off shore (井龍氏・杉山氏・松田氏・山田氏) の報告があった。

JR311 Cascadia 乗船についての現状について説明があった。

JR312 Super Fast II にサイエンスコミュニケーターとして1人枠が与えられたため、未来科学館から乗船希望がある旨の報告があった。

3. J-DESC主催シンポジウム（J-DESC陸上掘削部会）

12月に開催されるシンポジウム「地球をのぞくファイバースコープ - 陸上科学掘削と社会」について紹介された。

サイエンスプランも現在作成中ということが報告された。

審議事項

1. 日本海ワークショップ関連について

阿波根補佐から日本海ワークショップについて昨年夏前に役割を決めてから動きが止まってしまっているため、方向性を決める必要があると説明があった。

担当は、静岡大学の海野さんに決定されたが、乗船してしまったため実際にはIFREEの阿部なつ江さんがサポートし動き出している。

方向性が決まり次第、海野さん・阿部さんから執行部会へ紹介・報告して頂くことになった。

4. 日本海ワークショップ関連について

地球環境専門部会からはオ - ガナイザ - として東京大学の多田氏、補佐役として産総研の渡辺真人氏と秋田大学の佐藤委員が選ばれた

5. Program Member Office Meeting(京都)について

阿波根補佐から上記会議（PMO）は、各 National Office が集まり、問題点を議論する場であり、今現在アメリカからしか提案が出ていないと説明があった。

J-DESC からは下記の事項について提案することになった。

1. 国際パネル運営において Member Office の議長に英語の苦手な日本人に配慮して欲しいという依頼

2. co-chief 決定時期を決める日時・タイムテーブルを教えて欲しいという要望

PMO の主催を J-DESC がするならば、「ちきゅう」に関する事情聴取を IO にしたいため一人説明者を出してもらおうよう C D E X へ要望書をだすことになった。

PMO 会議に出席する鈴木部会長・阿波根部長補佐・AETO 長橋氏の旅費を J-DESC 執行部会議開催費から支出することが承認された。

6. J-DESC 予算中間状況報告とか半期予定について

事務局より中間予算状況が報告された（資料 ）

J-DESC のポスターは法人化した際に作成したいという意見がでた。

IODP のパンフレット残量が少ないが、今月の地質学会で使用したいため増刷することが認められ

た。

後期に J-DESC 予算の支出項目を増やしてもいいのではという意見がでた。

シンポジウム開催費の支出(使用)項目を付加・変更および費用額を増やしてシンポジウム開催を援助したいという意見がでた。

7. 研究成果の発信に向けた J-DESC としての取り組みについて

阿波根補佐よりこれから乗船の成果が出てくる時期になるため、どのように研究成果を J-DESC から発信していくべきかと提案され、研究成果の取り扱いを事務局で原案を作り、次回の執行部会で承認することになった。

研究成果を J-DESC ニュースレターに入れるという意見がでた。

その他

・ IODP 国内科学計画委員会の今後の進み方について

事務局から事前打ち合わせの結果を反映した原案を作成し執行部会へ提案した。その資料について今回の執行部会に意見をもらい、IODP 国内科学計画委員会メール会議により案を流して承認を取る予定だと報告された。早急に Task Force Team をつくるため、今回の意見を反映して案を訂正後、再度メールにて意見を伺うことになった。

・ Scientific Drilling Journal 刊行

阿波根補佐により IODP - MI から初刊 Scientific Drilling Journal が発行され J-DESC 事務局から J-DESC 関係者へ郵送されることが報告された。郵送費は J-DESC 予算から支出されることになり、今後の広報のためにもある程度部数を保存しておくことになった。ワークショップの開催予定があれば、national office を通してでも直接 IODP - MI へでも通知することと、Scientific report を提出したい方は 9 月 22 日までに連絡すること等、阿波根補佐より報告されたが、詳細については IODP - MI 札幌オフィスに確認するという事になった。

・ J-DESC News Letter

事務局から J-DESC News Letter について、部数 2000 部を 11 月初めに発行予定、予算は年 1 回の印刷文だということが報告された。

意見として、

ICDP 国際に関係のない陸上掘削を入れる。

年 1 回発行だと効果がないのではないか。

HP に PDF で更新していくのはどうか。

・ J-DESC 新パンフレットの製作について

事務局から J-DESC 新パンフレットを、約 2000 部を予算 40 万円で製作するという提案があった。現在のパンフレット部数が少なくなり、会員機関の増加により変更箇所が増えたため、いい機会だとい

うことになった。News Letter とは違うため、2年ぐらいは持つように印刷部数を考える必要があるという意見がでた。

・IODP パンフレットについて

現在 IODP パンフレット部数がないため、今月予定されている2つの学会のために早急に増刷する必要があるということを広報の木戸委員より提案されたことを事務局が報告した。

増刷予定のパンフレットはCDEX作成だが、著作権がないということで、この件は今回欠席されている木戸委員へ確認をとることになった。IODP - MI へは日本語版を作るよう要請し、事前に確認できるように依頼することになった。

・その他

ミッションチーム結成を早めて欲しい 9月下旬に専門部会長会議を開催する。

SPCの事前打ち合わせの際に問題点やJ-DESCの考えを明白にする必要がある。

ミッションチームについて要望を明確化する。

専門部会長会議後、メールで連絡。

専門部会と早急にメールでも議論・検討して頂きたい。